



【2018-10-24】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、  
人生を味わう

今週の雑感

自然とは、そもそも人間の  
常識外？

長野修二

## 自然とは、そもそも人間の常識外？

---

10月中旬ともなると日没ははやく、夕方5時過ぎにはすっかり暗くなり、犬との散歩も少々寂しさを感じるものです。

夏の暑さが強烈だっただけに、この季節の景色はかなり弱弱しさが強調されてしまいます。

東京では夏のセミの声がこれまでと違っていたと、ある昆虫学者が書いていました。

この地のセミの声は毎年おなじようにアブラゼミからはじまりミンミンゼミへ、そしてツクツクボウシで終わりました。

その意味では、夏の熱さを除けば、昆虫たちの鳴き声はいつもの年と同じ順番で鳴いていたようです。

それでも9月の台風による塩害は生まれてはじめて経験することで街路樹やわが家の庭のバラや犬と散歩するときに目にする雑草などもかなり被害にあっています。

海から離れている（およそ15km～20kmくらいでしょうか）

この地でもこの状態ですから、沿岸部ではさらに被害はひどかったはずです。

私たちが知っている常識は、生まれてこれまでの間に人間が理解した範囲でしかなく、所詮、地球の歴史からすればわずかなことでしかありません。

そういえば、海水は6憶年程度でなくなるという学説が出されているなど、私が知るかぎり、あるいは自分の感覚ではありえないと思えることがこの惑星の時間軸の中には存在しているようです。その意味でも今年ほどその実感をもった年はないでしょう。

人間という生き物は、このような目の前の現象に基づいてしか自然を理解できないので人間社会が築いてきた流れを変えてしまうのはなかなかむずかしいことなのでしょう。

それが、また、人間なのでしょう。

しかし、このような現実直面することで少しずつ自然というものを理解できるようになることにも意味があります。

人間も、所詮、自然の中の生き物でしかないということ。。。

いずれこの地も必ず大きな災害にみまわれるでしょう。

そのときさらに自然というものを理解することになりますが、すこしだけそのような災害に備えながら、やはり日常的な自然とのかわりを大事にしたいものです。

毎日見上げる空ですら同じものがないように、自然の移り変わりをみているだけで、不変なものはなく、常に変化するのが自然だということを感じることができます。

庭の芝生だけは、夏の暑さが心地よかつたらしくいつもの年以上に色鮮やかでしっかりとした芝を根づかせていました。

その分、芝刈りは大変でしたが。。。

芝生だけでなく、木によっては暑さや塩害にも負けない強いものが存在していますし、身近な庭の中でさえいろいろな自然の姿がみられます。

ハイビスカス（4種）は、どの木も暑さや塩害などものともせず、きれいな花をたくさんつけてくれました。

さすが海辺や暑いところで鍛えられているだけのことはあります。それでも11月になると枝を短くして冬支度をはじめることになります。

まもなくこの地の近隣にも白鳥たちが戻り、本格的な冬の訪れを待つようになります。

常識外の自然を知ること人間に与えられたテーマでしょうか。

惑星に生きるとは、そもそも人間の常識外のことが前提になるのかもわかりません。